



◆ジャムを練り込み生地を作る



◆生地をのばしてあんを詰める



◆ヘタを形作るのに一苦労



◆みかんの風味が香るみかん大福

広野町といえどもかん!

第5班のメンバーは、子どもからお年寄りまで親しめる大福を作ることに決定。「広野町をPRするためには」と考え、大福の皮にみかんを練りこむアイデアを採用しました。

2日間のスケジュールの中で各担当を決め、大福づくりにとりかかったメンバーは試行錯誤を繰り返しました。皮の種類もバラエティーに富んだものを揃え、生地に、それぞれ計5種類のジャムを練り込んだ。ジャムは、みかんジャムを食生活改善推進協議会よりいただくことができたが、ブルーベリー・いち



大福をみかんに見立てました

じく・りんご・抹茶は全て手作り。また、皮を加熱する時間が、練り込んだジャムによって異なるため調節に苦労も。

大福をみかんに見立てるアイデアも浮かび、抹茶を練り込んだものをへタに見せて大福の上のせました。このへタを形作るにも何度も失敗を繰り返しました。

これらの努力によって、「オリジナルみかん大福」が完成しました。

すべて自分たちで取り組みました。

担当した先生に、授業の感想と生徒へのメッセージを伺いました。

1年A組担任の小島久美子先生は、「ナイスグルメ賞の受賞にびっくりしました。すべて、生徒が自主的に考え取り組みんだ結果です。第5班に限らず、生

徒には今後も、目標を高く持つて、上に上へ伸びてほしいです。」と、1年C組担任の松田和恵先生は、「第5班の作品は、一番完成度が高かったです。生徒には、積極的にいろいろな人とたくさんふれ合ってほしいです。広野中生徒全員いいものをもっていきます。」と述べました。

柴口先生は「広野中の生徒には、友達に思いやりのある人になってほしい。そして、自分に対して向上心を持ち、さらに上のレベルへと意欲ある生徒になってほしいです。」とメッセージを述べました。

第5班のメンバーそれぞれに受賞の感想を伺いました。

松本萌花さん
驚きました。

松本悠花さん
びっくりしました。
夢かと思いました。

太田明日香さん
うそでしょ?!
すごくびっくりしました。

阿部寧彩さん
すごくびっくりで、
うれしかった。

芳賀桃佳さん
うれしかったです。

根本麻衣さん
うれすぎて、
何がなんだかわかりませんでした。

試食して気づいた点をメモする



東北経済産業局主催
平成22年度地域の魅力発信アイデアコンテスト

オリジナルみかん大福 ナイスグルメ賞受賞

「広野町のPRを考え、みかんを利用しました。商品化できたらうれしいです。」と笑顔で受賞の喜びを語ったのは、広野中学校1年総合学習第5班のメンバー。(表紙右から、根本麻衣さん、芳賀桃佳さん、阿部寧彩さん、太田明日香さん、松本悠花さん、松本萌花さん)

6人は、東北経済産業局主催の「平成22年度地域の魅力発信アイデアコンテスト」へ大福の皮に広野町のみかんを練りこんだ「オリジナルみかん大福」を出品。地域の特産品を良く活用した食品であることが評価され、ナイスグルメ賞を受賞しました。

このコンテストは、地域の価値ある特産品・伝統・自然・地元商店街などを活用した商品やビジネスプランの開発を通じて地域の魅力を発見することを目的としたコンテストです。平成15年度から、東北6県を中心に延べ166の小・中・高等学校から、約5,300人が参加しています。



2月10日に行われた表彰式に出席
(宮城県仙台市の戦災復興記念館にて)

「地域がテーマでした。特産品開発や広野町をPRすることなど、生徒の意欲につながってくればという思いできっかけを与えました。何らかの方法で、みんなの目に留まればいいなど、具体的な目標があることで、もっといい作品を作ろうと、締め切りも決まっていますし、スケジュールもしつかり考えなくてはなりません。楽しみもあります。生徒たちは、取り組みやすかったのではないのでしょうか。生徒の反応はよかったです。」

「広野中学校1年生は、総合的な学習の時間で地域をテーマにした特産品開発やふるさとPRなどのさまざまな課題に取り組みました。これは、広野町を知ること、町の良さに気づき課題解決に向けて自分の意見をまとめる授業。第5班は、この総合的な学習の時間から、コンテストへの出品を決めました。課題の取り組みは、第5班以外にも、「ふくしまふるさとCM大賞」に作品を応募するなど、生徒の学習意欲が高まる時間となりました。これら、コンテストなどのきっかけを与えたのは、1学年主任の柴口正武先生。

総合的な学習で、
地域が変わる!